

授業科目：環境の指導法

担当教官：隅田 学

科目区分：専門教育科目

受講生数：32名

タイトル：学部と附属が協働した実践的な内容を提供する授業

理科教育講座・隅田 学

1. 本授業の目的と構成

本授業は、2回生を対象とし、幼児は身近な環境や事象にどのようにかかわっていくのか、そのかかわりを通してどのように発達していくのか、という点を中心に、具体的な実践事例に基づきながら、領域「環境」のねらい、内容、留意事項等について考えることを目的としている。到達目標としては、次の4点が挙げられている。

- 1) 幼稚園教育要領における「環境」について正しい知識を得る。
- 2) 身近な環境や事象に関する幼児の認識や興味・関心の実態や特徴を理解する。
- 3) 身近な環境や事象に対する幼児の認識や興味・関心を高める指導を工夫できる。
- 4) 家庭や地域社会との協働による子どもの学び支援の在り方を積極的に考える。

本講義は、大きく以下の4つの部分から構成されている。

- 1) 幼稚園教育要領における「環境」
- 2) 身近な環境や事象に関する幼児の認識や興味・関心の実態や特徴
- 3) 身近な環境や事象に関する統合的な体験活動（植物・動物など）
- 4) 子ども・教師・家庭・地域社会

「2）身近な環境や事象に関する幼児の認識や興味・関心の実態や特徴」部では、授業者が附属幼稚園の教員と協働で行った実践研究が具体的に紹介され、「3）身近な環境や事象に

関する統合的な体験活動（植物・動物など）」では、附属幼稚園の教員も訳者として加わり、授業者が監訳出したテキストが使用された。「4）家庭や地域社会との協働による子どもの学び支援の在り方を積極的に考える。」では、附属幼稚園で行われたPTAの大会で使用された資料を用いて、附属幼稚園のPTAの方3名をゲストスピーカーとして授業に招いて取り組みを紹介して頂いた。その際、そのPTAの方々の子どもたちを対象に、受講生が考案した科学活動プログラムを実践した。

2. 授業アンケートの実施と結果

(1) アンケートの項目と対象

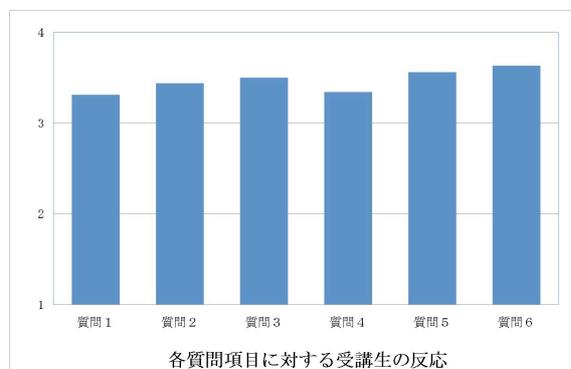
授業終了時に、受講生を対象に、以下の7つの項目についてアンケートを実施した。質問項目1～6については、1（全く〇〇ではなかった）から4（大変〇〇だった）から選択するよう求め、質問項目7は自由記述形式で実施した。回答数は32であった。

- ① あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
- ② 本授業のテーマ・目的は明確でしたか。
- ③ 授業中の課題の量は適切でしたか。
- ④ 授業中に質問や意見発表の機会はよく与えられましたか。
- ⑤ 担当教員の配付資料や助言は有用でしたか。
- ⑥ この授業は幼稚園で実際に授業を行う準備として有益だったと思いますか。
- ⑦ 本授業は今年度初めて保育者養成コースとして開講したものです。今回特に良い

と思った点、改善が求められる点があれば簡単に記述してください。

(2) アンケート結果

質問項目1～6に対する受講生の回答を平均値として示したものが下図である。



また、質問項目7については、「特に良いと思った点」「改善が求められる点」について、以下のような回答が寄せられた。

特に良いと思った点

- ・実際に自分が体験することができる点。自分が体験した上で子どもへ向けどう行っていくかということが考えられる。
- ・教科書がおもしろかった。
- ・参考書がとても興味深いものばかりで、おもしろかったです。将来、先生になった時にぜひやってみたい活動がたくさんありました。
- ・子どもさんや保護者さんと関わる機会があり、勉強になった。
- ・最後に子ども対象に授業をしたのがとても良かった。
- ・幼稚園からのゲストのお話も聞くことができ、内容の濃い授業だった。

改善が求められる点

- ・スライドを見せてくれた時、速くてあまりノートをとれなかった。
- ・英語のVTRがつかかったです。
- ・いろいろ実験できてたのしかったけど、1時間ですするのに多すぎてしんどいときもあったような気がします。

- ・フィードバックをもう少ししてもよいのではないのでしょうか。

3. 授業者による授業に対する自己評価

本授業は、今年度初めて保育者養成コースの授業として開講された。学生は、大変意欲的に取り組み、体験を通して、実践的に学ぶことができたように思える。課題や配付資料についても学生より適切であったと評価された。記述回答より、幼稚園からPTAのゲストスピーカーを招いて話を聞いたり、自分達が開発した活動を実際に幼稚園の子どもたちを対象に実践したことは、高く評価されたと共に強い印象に残ったと思われる。



子どもを招いて大学生が活動を実践する様子

今後の改善点としては、授業中に扱う活動を精選して、その理論的背景や子どもの反応、実践上の注意点等について、より丁寧に扱うよう心がけたい。